

農作物技術情報 第8号 畜産

発行日 令和7年10月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大家畜 気温が低下するにしたがって、体温維持のためのエネルギー要求量が増えます。10～30%の増飼を行い、泌乳量の確保や繁殖機能の早期回復を促しましょう。
- ◆ 子牛 効果的な防寒対策と基本の環境管理を行い、発育の確保と呼吸器疾病等の発生を予防しましょう。

1 牛の栄養管理

牛は、暑熱ストレス以上に寒冷ストレスを受けている、といわれます。栄養が不足すると、繁殖（受胎）の遅れにつながりますので、飼料給与について再確認します。

ポイント

- ・ 気温の低下に合わせて給与量を増やす
- ・ 温水を給与する
- ・ ビタミン類やミネラルを充足させる

(1) 気温の低下に合わせた増飼

牛は寒さに強い動物ですが、気温の低下に伴って熱生産のためのエネルギー消費量が増えます。気温が0～-5℃の場合は、適温時（18～25℃）の10～30%の増飼を行います。10～11月には気温に応じて10～20%の増飼を行います。（表1）

表1 成雌牛(体重 500kg)の養分要求量

気温	TDN(g/日)	適温時との割合(%)
18～25℃	3,270	100
0～-5℃	4,251	130
-5～-10℃	4,905	150
-10℃以下	5,559	170

*1) 黒毛和種妊娠牛の冬期屋外飼養技術（平成26年度岩手県農業研究センター試験研究成果書）より抜粋



*1) 黒毛和種妊娠牛の冬期屋外飼養技術（平成26年度岩手県農業研究センター試験研究成果書）はこちらからご覧いただけます

(2) 寒冷期の不受胎の回避

県内の黒毛和種繁殖牛の分娩間隔を受胎した月ごとに平均してみると、2021～2023年に受胎した牛は、11～3月の寒冷期に長くなり、410日以上となっています。2024年は、5月まで420日以上とさらに長くなっています。（図1・表2：モットー君通信簿R7年6月配布データより）

受胎に至るまでは多くの要因がありますが、牧草品質や給与量を確認し、寒冷期に栄養が充足しているか再検討します。

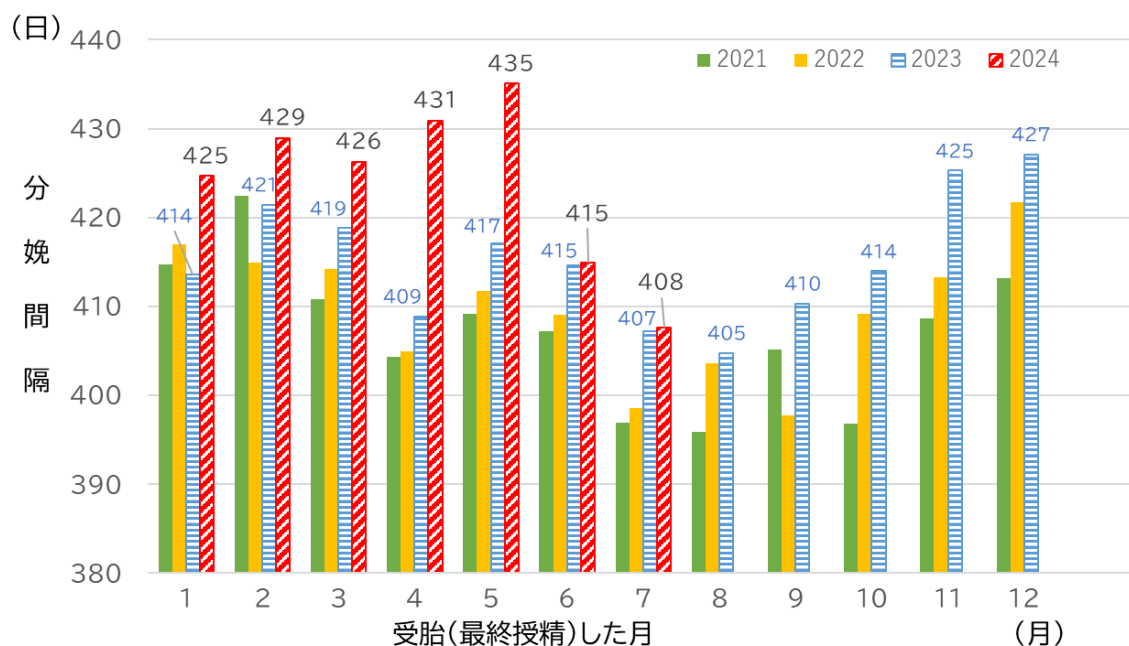


図1 受胎月別の分娩間隔

表2 受胎(最終授精)した月別の受胎頭数 (頭)

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2021	708	632	786	804	806	753	867	895	1,021	957	1,003	865
2022	772	815	946	977	926	932	1,061	1,010	1,144	1,189	1,110	1,100
2023	959	902	1,048	1,048	1,055	1,067	1,173	1,104	1,194	1,347	1,266	1,236
2024	425	429	426	431	435	415	408					

(3) 寒冷期の飼料給与の実際

牛が採食した栄養は、体内で使われる際に優先順位があり、生体維持→妊娠の維持(胎仔の栄養)→自身の成長(36 か月齢くらいまで)→泌乳→栄養度(体脂肪蓄積)→繁殖(受胎)の順に満たされます。

寒冷期に増飼を行うと、泌乳や受胎のための栄養も充足し早期受胎が可能になります。(*2 黒毛和種における分娩間隔短縮のための寒冷期飼料給与プログラム)

TDN、CPとも満たされるよう、牧草の栄養成分に応じて、牧草のみでなく配合飼料や圧ぺんとうもろこしなども組み合わせて給与します。(表3)



*2 黒毛和種における分娩間隔短縮のための寒冷期飼料給与プログラム(令和4年度岩手県農業研究センター試験研究成果書)はこちらからご覧いただけます

表3 体重500kgの成雌牛の給与例

適温時(18～25℃)	維持期		妊娠末期		授乳期(乳量7kg)	
	TDN	CP	TDN	CP	TDN	CP
要求量(g)	3,270	515	4,100	727	5,790	1,194
イネ科牧草(kg)*3	7.5		8.0		8.0	
繁殖牛用配合飼料(kg)*4	0.0		1.5		4.0	

寒冷時(0～-5℃) 30%増量	維持期		妊娠末期		授乳期(乳量7kg)	
	TDN	CP	TDN	CP	TDN	CP
要求量(g)	4,251	670	5,330	945	7,527	1,552
イネ科牧草(kg)*3	9.0		9.0		9.0	
繁殖牛用配合飼料(kg)*4	0.8		2.0		5.5	

*3イネ科牧草 TDN45%、CP7%として試算。

*4配合飼料 TDN70.1%、CP16.6%として試算。

2 子牛の防寒対策

子牛の快適な気温は、黒毛和種、ホルスタイン種とも、13～25℃です。平均気温がそれ以下になると「寒い」と感じます。ホルスタイン種の3週齢までの子牛の場合、体温の維持のためのエネルギー要求量は、環境温度20℃の時に比べて、0℃では26%、-5℃では66%も増えますが、それを補うためのミルクやスターターの摂取量には限界があります。

また、腹が1℃冷えると免疫力が8%低下するとの報告がありますので、飲み水を温めるなど防寒対策を行います。

ポイント

- ・子牛をぬらさない、冷たいものから遠ざける、水分（ぬるま湯）の給与
- ・子牛を保温する
- ・環境の管理（換気、密飼いにしない、健康観察、牛舎消毒など）を励行する

(1) 子牛をぬらさない、冷たいものから避ける

子牛の寝床は「鳥の巣のように」といわれます。冷たいコンクリートの床に触れないよう、寝てほしい所に敷料をたっぷり敷きます。バスマットなど保温性のあるものを併用するのも効果的です。

水は、空気の20倍の熱を奪います。被毛が汚れると保温機能が失われるので、汚れた敷料は毎日こまめに取り替えます。

すきま風に当てないよう、防風壁はL字型（2方向）に設置します。

スターターなどの固形飼料の消化吸收のために、飼料の4倍の水が必要です。哺乳の直前を避け、ぬるま湯を十分に給与します。

(2) 子牛を保温する

哺乳期は、カーフジャケット、ネックウオーマーを着せて保温します。加温器は、遠赤外線効果で体の内部まで温めることができるカーボンヒーターや

表4 子牛の飲水温度と第1胃内容物温度低下の関係

飲水温度	第1胃内容物の温度低下
7.8℃	—11℃
11.2℃	—2.8℃
26.7～37.2℃	—1～—1.6℃

ホーズデーリイマン2012年2月号より



写真1 敷料は、寝てほしい所にたっぷり敷く

ハロゲンヒーターを設置します(投光器は、温める効果が低いばかりか、火災発生のリスクが高いため使用しない)。

夜は、60℃位の湯たんぽも使用します。

(3) 環境の管理

群飼いの場合は、十分な飼槽を用意し休息できるよう密飼いを避けます。

アンモニアやホコリで喉や気管の粘膜を損傷させないように、温かい時間帯に換気を行い、新鮮な空気を取りこみます。

昼間は日光により明るさを確保して健康観察を行い、下痢や疾病の早期発見・早期治療を励行します。



写真2 コンパネは2方向に設置して防風
カーボンヒーターで保温する

次号は11月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理
無事故で終える収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。